

第177回 原医研セミナーのご案内

下記のとおりセミナーを開催いたします。多数ご参集ください。

記

日 時：平成28年2月18日（木）午後4時～

場 所：霞総合研究棟 7階 701セミナー室

1. 演 題：関係を図示する ～パス解析モデルによる統計解析 演 者：計量生物研究分野 佐藤 健一 准教授

AさんはB君が好き、という関係は模式的に、 $A \rightarrow B$ とかける。さらに登場人物が増えれば人物相関図になるだろう。一般に、要素間を矢印でつなぐ図は数学分野においては有向グラフとよばれ、統計解析においては観測値間の因果を与えて回帰係数を求めるパス解析モデルに使われている。本講演では、パス図を比較的容易に描くことのできるフリーウェア“Graphviz”（AT&T 研究所、<http://www.graphviz.org/>）を紹介し、次に、フリーの統計ソフト“R”を使ったパス解析モデルによる解析例を示す。また、Graphvizを利用して開発した資料整理のためのWindowsソフトウェアを紹介する。なお、配布資料を <http://home.hiroshima-u.ac.jp/ksatoh/> に掲載する。

2. 演 題：医学の広島とヒロシマの医学：広島医学の黎明とヒロシマの復興学としての医学

演 者：附属被ばく資料調査解析部 久保田 明子 助教

現在、広島で先端的な医学研究に関連し、また医療の現場に携わる皆さんは、その仕事の重大さや多忙さもあって昔のことにご関心を寄せることはあまりないかもしれません。しかしながらそういった皆さんは、実は既にもう、50年後、100年後の広島の医学史の研究対象の一部になっています。今回は、そういった皆さんにつながるお話を少ししようと思います。明治時代の前から中国地方は洋学が盛んだった地域であり、医学の分野でも重要な人物が多く登場しました。また、「原爆放射線医科学研究所」から「原爆」の2文字を削ることが不可能なことからわかる通り、広島の医学を考える上で、原爆に関する医学、被ばくに関する医学研究の歴史は、単に終わった過去ではなく、“復興”という考え方から見ても現在的に重要です。“復興”というのは、何も無いところに何かを構築（construct）するのではなく、「以前の活況に戻す」（reconstruct）という意味もありますから、過去を意識する現在であることが重要だと思えます。そういった視点から広島の医学史の一端をご紹介します。

連絡先： 広島大学霞地区運営支援部総務グループ 082-257-1639（内線 霞6279）